

中野観音堂

静岡県指定文化財

中野観音堂仏像群 平成17年11月29日 県文化財保護審議会の審議を受け
 県指定文化財に指定

中野観音堂は中野の歴史を色濃く伝えるべく、古い歴史を持ったお堂である。
 お堂内には5体の仏像が安置されている。
 本堂は「十一面千手観音」である。仏像群は9体とも平安中期(10世紀後半から11世紀
 前半)の作で古い様式を留す。
 中野観音堂の仏像は木造千手観音立像(高さ114cm)のほか、本堂十一面観音立像 2体、
 木造聖観音立像 2体と、いずれもお堂敷材による一木造りで600~1,000年前の作とみられます。

安置仏像



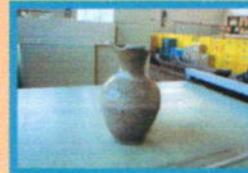
その他に「応永31年11月吉日」の銘のある銅口がある。
 駿河国安部郡 下井河中野観音堂施入 且那敬白と記してある。

懸仏



奉納型中野観音堂仏像群

長頸壺



中野観音堂について

応永2年2月創立、お堂3間4方、境内 69 坪、官有第三種、信徒43人、受持曹洞宗、慈雲院(中野部落のお寺)現在は竜泉院です。

中野観音堂蔵仏像群5軀は、平安中期(10 世紀後半~11 世紀前半)の作で古い様式を残し、いずれも針葉樹材による一木造りで900年~1,000年前の作とみられます。平成17年11月29 日静岡県指定有形文化財に指定され、又銅口には応永31年11月吉日、駿河の国安部郡下井河中野観音堂施入且那敬白と記してあります。これも平成20年3月26日静岡市指定有形文化財に指定されました。

右上の懸仏群20面が現存しています、室町時代に信仰されていたと考えられます、鏡の裏面に銅などの円板上に、神仏、仏像の半肉彫りの鑄像をつけたり、線刻したりして、内陣かけて拝んだもので、神仏習合の信仰よりうまれ、鎌倉、室町時代にかけて盛行。

右下の壺は、中野観音堂下側の斜面の茶園より出土したものです。灰釉陶器長頸壺とのことです、愛知県猿投窯のもので、9世紀後半頃の黒笹90号窯式にあたるもので、各地の墳墓から同一のものが出土していて口縁部と高台部を細かく打ち搔いて、胴部に穴をあけている例など、この壺も同一でした。この壺は現在登呂遺跡の博物館に保管されています、

この時代に火葬して、壺に入れて埋葬したということは、相当に高貴な人がいたと考えられます。

中野観音堂仏像群開眼供養

平成24年1月6日



中野観音堂について

応永2年2月創立、お堂3間4方、境内 69 坪、官有第三種、信徒43人、受持曹洞宗、慈雲院(中野部落のお寺)現在は竜泉院です。中野観音堂蔵仏像群5軀は、平安中期(10世紀後半～11世紀前半)の作で古い様式を残し、いずれも針葉樹材による一木造りで900年～1,000年前の作とみられます。平成17年11月29日静岡県有形文化財に指定され、平成21年～23年にかけて保存修復、平成24年1月6日開眼供養が行われました。又鰐口には応永31年11月吉日、駿河の国安部郡下井河中野観音堂施入旦那敬白と記してあります、平成20年3月26日静岡市有形文化財に指定されました、現存している鰐口では静岡市で最古のものとの事です。右上の懸仏群20面が現存しています、室町時代に信仰されていたと考えられます、鏡の裏面に銅などの円板上に、神仏、仏像の半肉彫りの鑄像をついたり、線刻したりして、内陣かけて拝んだもので、神仏習合の信仰より生まれ、鎌倉、室町時代にかけて盛行。右下の壺は、中野観音堂下側の茶園より出土したもので、灰釉陶器長頸壺とのことです、愛知県猿投窯のもので、9世紀後半頃の黒笹90号窯式にあたるもので、各地の墳墓から同一のものが出土していて口縁部と高台部を細かく打ち搔いて、胴部に穴をあけている例など、この壺も同一でした。この壺は現在登呂遺跡の博物館に保管されています、この時代に火葬して、壺に入れて埋葬されたということは、宝泉禅門中務卿家の者長禄5年(1462年、観音堂の堂守、家紋那須藤)の墓石が観音堂の下に残っている事と合わせて相当に高貴な人がいたとも考えられます。

奉修理中野観音堂仏像群



修理前後の写真

